



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Trade Policy, Lobbying and Heterogeneous Firms [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	QASIM AHMED WAQAR
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経済学)
Dissertation Number	甲第14027号
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/78630
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Qasim_Ahmedwaqar_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（課程）

氏名： Ahmed Waqar Qasim

審査委員	主査	教授	今井 晋
	副査	教授	板谷 淳一
	副査	准教授	須賀 宣仁

学位論文題名

Trade Policy, Lobbying and Heterogeneous Firms
(貿易政策、ロビー活動および非同質的企業)

本研究科に所属している主査の今井および公共経済学の専門家であり副査の板谷淳一先生、国際経済学の専門家であり副査の須賀宣仁先生を審査員として Ahmed Waqar Qasim 氏の学位請求論文に関する審査委員会を令和 2 年 2 月 21 日に実施した。最初に論文の要約を簡単に述べ、次に審査委員会の評価を述べる。

本研究では生産性の異なり、参入、退出、輸出の意思決定を最適に行う企業 (heterogeneous firms) のロビー活動が政府の貿易政策の決定にどのような影響を与えるかを研究した。

本論文の第 2 章では、企業のロビー活動が政府の貿易政策の決定にどのような影響を与えるかを理論的に研究した。ロビー活動の影響を検討するために、企業のロビー活動が存在しない経済における最適関税政策および最適輸出税を導出し、次に、企業のロビー活動を許した経済における関税政策および最適輸出税を導出し、両者を比較検討している。

第 3 章では、第 1 章で展開されたモデルを拡張して、企業がロビー活動を行うか否かを内生化した 2 段階モデルを構築した。

第 4 章では、前 2 章は 2 国貿易モデルを想定しているが、外国政府は能動的に貿易政策を行わない主体として扱われていた。本章では、自国政府と外国政府の両方が能動的に貿易政策を採用する 2 国貿易モデルを構築した。

第 5 章では、生産性に関して非同質的企業が、ロビー活動を行う状況で新しい生産技術の採用に関するインセンティブがどのような影響を受けるかを分析している。

第 2 章は Economics Bulletin に掲載予定であり、博士号授与の資格を満たしている。

したがって、当審査委員会は全会一致をもって、Ahmed Waqar Qasim 氏から提出された学位請求論文が博士号（経済学）の学位授与に値する水準であると判断した。